



Patient Safety

Global Ministerial Summit 2018

第3回閣僚級世界患者安全サミット

- 日時** 2018年4月13日（金）、14日（土）
- 場所** グランハイアット 東京
東京都港区六本木6-10-3
- 主催** 日本政府（厚生労働省）
- 共催** 日本医療安全調査機構、日本医療機能評価機構
- 後援** 国際協力機構（JICA）、国立国際医療研究センター
- 参加国** 英国、ドイツ、オーストラリア、フランス、インド、インドネシア、イタリア、カナダ、メキシコ、ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、韓国、米国、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス、デンマーク、スイス、フィンランド、クロアチア、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、オランダ、スロバキア、チェコ、ポーランド、ギリシャ、スペイン、イスラエル、スリランカ、モンゴル、ケニア、タンザニア、オマーン、カタール、クウェート、エクアドル、フィジー、ニュージーランド
(順不同、46カ国参加予定)
- 参加機関** 世界保健機関（WHO）、経済協力開発機構（OECD）、世界銀行（WB）、アジア開発銀行（ADB）、国際協力機構（JICA）、世界医師会（WMA）、患者安全推進財団（PSMF）

サミットプログラム

4月13日（金）専門家会合 司会者 池田千絵子 厚生労働省総括審議官

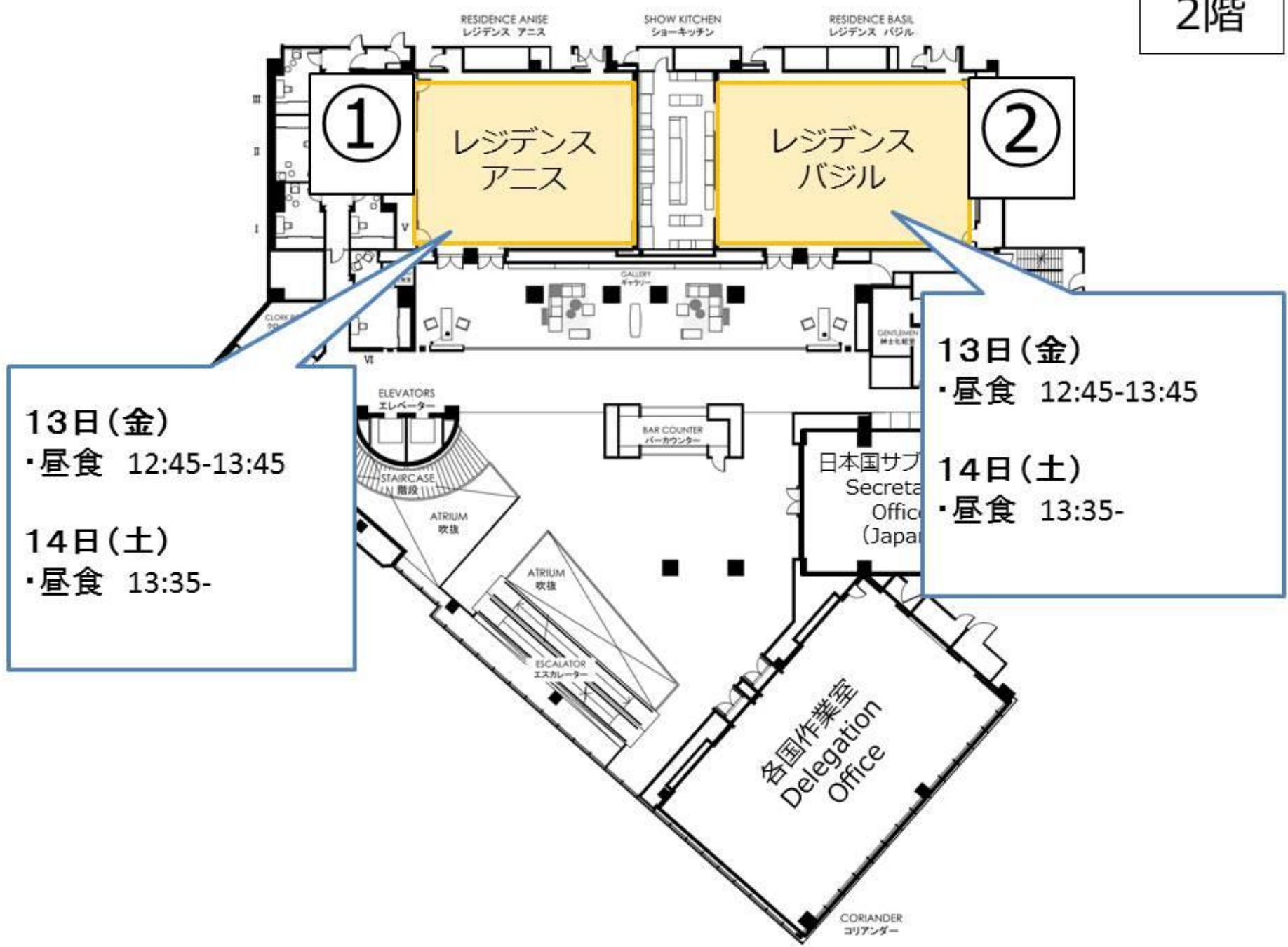
【第1日】

時間	場所	演題	内容
9:00-9:05 (5分)	③	開会宣言	武田俊彦（厚生労働省医政局長）
9:05-9:25 (20分)	③	特別発言	アンヘル・グリア（OECD 事務総長）
9:25-9:45 (20分)	③	オープニングセッション 患者安全の歴史	演者：アラ・W・ダルジ卿（インペリアルカレッジ医学部外科教授、英国）
9:45-10:25 (40分)	③	基調講演1 UHCと患者安全 -UHCに必須である医療サービス提供の重要な要素である患者安全-	座長：横倉義武（世界医師会会長） ギンター・ヨニッツ（ベルリン医師会長、ドイツ） 演者：鈴木康裕（厚生労働省医務技監） ビクター・ザウ（全米医学研究所 所長、米国）
10:25-10:45 (20分)	④	コーヒーブレイク	
10:45-12:45 (120分)	③	パネルディスカッション1 患者安全文化	座長：ドナルド・パーウィック （医療の質改善協会(IHI)、名誉会長、米国） クリス・パワー （カナダ患者安全研究所会長、カナダ） 演題：演者 1. 患者安全におけるリーダーシップと教育、養成：マイク・ダーキン （インペリアルカレッジシニアアドバイザー、英国） 2. 「ドイツ患者安全連合 -安全文化の背景-」ハーディー・ミュラー （ドイツ患者安全連合、マネージングディレクター、ドイツ） 3. 途上国の公立病院におけるKAIZEN：トン・ター・チャー （チョーレイ病院、室管理部門長、ベトナム） 4. KAIZENを通しての患者安全：麻生泰（株）麻生代表取締役会長 5. 患者安全への患者の関わり：豊田郁子（NPO 法人架け橋理事長） 6. Safety I, Safety II, 医療のレジリエンス：ジェフリー・ブライスワイト （オーストラリアヘルスイノベーション研究所、教授、オーストラリア）
	⑤	パネルディスカッション2 高齢社会における患者安全	座長：長谷川友紀（東邦大学教授） トマソ・ベランディ （トスカーナ州臨床リスクマネジメント及び患者安全センター副所長、イタリア） 演題：演者 1. 高齢社会における患者安全の概要：アルバート・ウー （ジョンズ・ホプキンス・ブルームバーグ公衆衛生大学院 教授、米国） 2. 高齢者に特有の危険性：ルイ・シウ・ファイ （香港中文大学、医療専門コンサルタント、中国） 3. 高齢者に対する適切な薬品使用：平井みどり（神戸大学 名誉教授） 4. 安全な生活のための認知機能が衰退した人及び家族へのリハビリ：大沢愛子 （国立長寿医療研究センターリハビリテーション部リハビリテーション科医長） 5. 急性期医療及び臨床での高齢者の医療過誤に関連した患者安全と予防法：ピーター・グスマン （GRB リスクマネジメント学会、マネージングディレクター、ドイツ） 6. 高齢者への危険なプライマリーケアの原因：国家報告収集事業からの教訓：アンドリュー・カーソン・スティーブンス （カーディフ大学医学部 診療研究フェロー、英国）
12:45-13:45 (60分)	①/②	昼食（ビュッフェ形式）	
13:45-15:45 (120分)	⑤	パネルディスカッション3 中低所得国におけるUHC達成のための患者安全の必要性	座長：ジェレミー・ヴェイヤード（政策アドバイザー、世界銀行） ニールム・ディングラクマール （WHO 患者安全とリスクマネジメント部門 コーディネーター） 演題：演者 1. 薬物治療の安全性に向けての課題 -スリランカの事例-：プリヤダルシャニ・ガラパッティ（コロンボ大学教授、

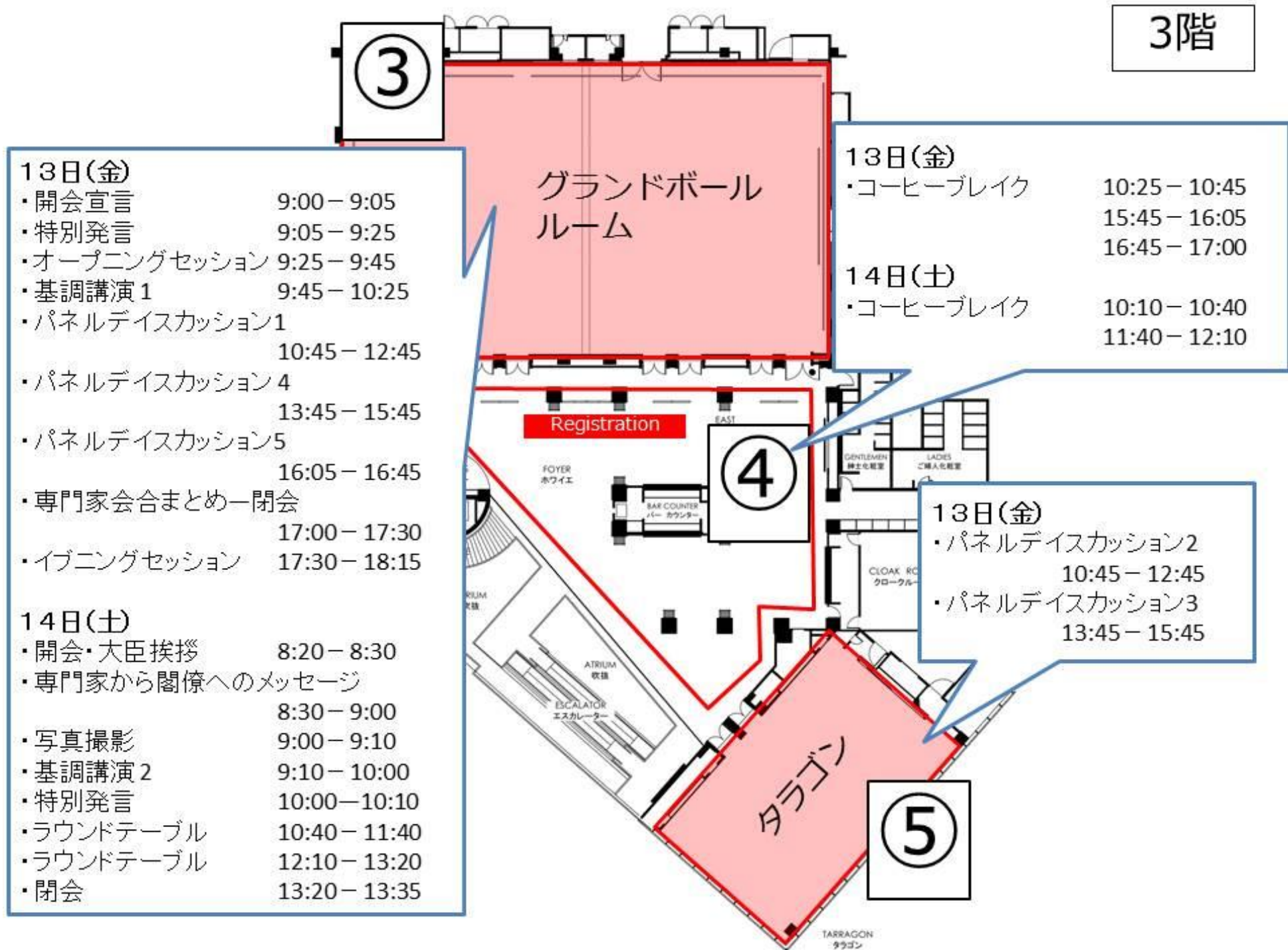
			<p>薬理学科長、スリランカ)</p> <p>2. 害のない薬物治療 — 第3回 WHO グローバルな患者安全への挑戦からの1年と患者の体験談 — 変化を生む議論を起こす (ビデオプレゼンテーション): リアム卿 (WHO 患者安全特命大使)</p> <p>3. プライマリケアにおける患者安全 — タイの事例 —: ピヤワン・リンパニヤラート (ヘルスケア評価機構 副 CEO、タイ)</p> <p>4. より安全なプライマリケア — UHC 達成の必要条件: WHO イニシアティブ —: ニーラム・ディングラ・クマール (WHO 患者安全とリスクマネジメント部門 コーディネーター)</p> <p>5. 患者安全への患者の関わり — ウガンダの事例 —: ロビナ・カイティリテッインバ (ウガンダ国立健康消費者機構 常任理事、ウガンダ)</p> <p>6. 効率化と費用削減 — フィリピンの経験から —: クリセルダ・アベサミス (フィリピン保健省 保健医療施設開発局 ディレクター、フィリピン)</p>
	③	パネルディスカッション4 ICT と患者安全	<p>座長: エドワード・ケリー (WHO 医療サービスデリバリー・医療安全課 課長) 武田裕 (滋慶医療科学大学院大学 学長)</p> <p>演題: 演者</p> <p>1. 安全性測定のためのビッグデータの活用: ドナルド・バーウィック (医療の質改善協会 (IHI) 名誉会長、米国)</p> <p>2. デジタルヘルスと患者安全 — インドの経験より: サンジーバ・クマール (インド保健省次官補、インド)</p> <p>3. 院内情報システムによりおこるインシデント: 楠岡英雄 (独立行政法人国立病院機構 理事長)</p> <p>4. ICT の効果の評価: ジョアンナ・ウェストブルック (マッコーリー大学 医療健康システム及び安全研究所ディレクター、オーストラリア)</p> <p>5. ダイナミックな医療制度のレジリエンス促進のための ICT の活用: 中島和江 (大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部長、教授)</p>
15:45-16:05	④	コーヒーブレイク	
16:05-16:45 (40分)	③	パネルディスカッション5 患者安全の経済	<p>座長: インゴ・ヘアテル (ドイツ連邦保健省、医療法制・患者の権利・患者安全課 課長、ドイツ)</p> <p>演題: 演者</p> <p>1. 測定 — 患者安全の測定の必要性: ニエク・クラジंगा (OECD 医療の質指標室長)</p> <p>2. 患者安全への投資の事例 — カナダの事例 (新 CPSI 報告書) —: クリス・パワー (カナダ患者安全研究所 会長、カナダ)</p>
16:45-17:00	④	コーヒーブレイク	
17:00-17:30 (30分)	③	専門家会合まとめ — 閉会	<p>座長: 小泉俊三 (医療安全全国共同行動 専務理事)</p> <p>演者: 各パネルディスカッション (1~5) の座長</p>
17:30-18:15 (45分)	③	イブニングセッション 「日本の制度の紹介」	<p>座長: 河北博文 (医療機能評価機構理事長) アヌワット・スパチュチュクル (タイ ヘルスケア評価機構 顧問 前 CEO、タイ)</p> <p>演者: 後信 (医療機能評価機構 執行理事) 木村壯介 (医療安全調査機構 常務理事)</p>

時間	場所	演題	内容
8:20-8:25 (10分)	③	開会・大臣挨拶	加藤勝信(厚生労働大臣)
8:30-9:00 (30分)	③	専門家から閣僚へのメッセージ	座長: 小泉俊三(医療安全全国共同行動専務理事) 鈴木康裕(厚生労働省医務技監) 演者: 各パネルディスカッション(1~5)の座長
9:00-9:10 (10分)	③	写真撮影	
9:10-10:00 (50分)	③	基調講演2 患者安全のグローバルアクション実現のためのステップ -UHC達成に必須である医療サービス提供の基本的要素である患者安全-	座長: ビクター・ザウ(全米医学研究所 所長、米国) 山本尚子(WHO 事務局長補) 演者: ジェレミー・ハント(保健大臣、英国) ルッツ・シュトロペ(事務次官、ドイツ) オバイド・アルサイディ(オマーン保健大臣 ビデオメッセージ)
10:00-10:10 (10分)	③	特別発言	アラン・ベルセ(スイス連邦大統領兼内務大臣)
10:10-10:40 (30分)	④	コーヒーブレイク	
10:40-11:40 (60分)	③	ラウンドテーブル	座長: 加藤勝信(厚生労働大臣) モデレーター: 佐原康之(厚生労働省大臣官房審議官) エドワード・ケリー (WHO 医療サービスデリバリー・医療安全課 課長) 演者: 参加国(大臣、副大臣を中心とした発言) 国際機関(アジア開発銀行研究所(ADB)、独立行政法人国際協力機構(JICA)、経済協力開発機構(OECD)、世界銀行(WB)、世界保健機関本部(WHO-HQ)、WHO 西太平洋地域事務局(WPRO)、世界銀行(WB)) 招待機関(世界医師会(WMA)、患者安全推進財団(PSMF)) ほか
11:40-12:10	④	コーヒーブレイク	
12:10-13:20 (70分)	③	ラウンドテーブル	座長: 加藤勝信(厚生労働大臣) モデレーター: 佐原康之(厚生労働省大臣官房審議官) エドワード・ケリー (WHO 医療サービスデリバリー・医療安全課 課長) 演者: 参加国(大臣、副大臣を中心とした発言) 国際機関(アジア開発銀行研究所(ADB)、独立行政法人国際協力機構(JICA)、経済協力開発機構(OECD)、世界銀行(WB)、世界保健機関本部(WHO-HQ)、WHO 西太平洋地域事務局(WPRO)、世界銀行(WB)) 招待機関(世界医師会(WMA)、患者安全推進財団(PSMF)) ほか
13:20-13:35 (15分)	③	閉会	加藤勝信(厚生労働大臣) 次期開催国保健大臣
13:35-	①/②	昼食(ビュッフェ形式)	

2階



3階





Medical Accident Investigation and Support Center
Japan Medical Safety Research Organization

医療事故調査・支援センター
一般社団法人日本医療安全調査機構



公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

